

## 広島派遣を終えて

糸魚川東中学校 2年2組 内田 光

私は、8月に広島に行き、資料館の見学や式典に参加しました。実際に見聞きし、たくさんのことを学び考えることができました。

平和記念資料館では原爆投下当時のものや写真が残されており、言葉では言い表せない感情がわきました。大やけどを負った人などの写真や絵を見ましたが、どれも見るだけでも痛々しく、辛い気持ちになりました。

平和記念式典には、外国の方もたくさんいました。国を越え、もう二度と同じことを起こしてはいけないという共通の認識があることを嬉しく思いました。私は、広島県知事がおっしゃっていた「万が一、核抑止が破綻した場合、全人類の命、場合によっては地球上の全ての命に対し、責任を負えるのですか。世界で核戦争が起こったら、こんなことが起こるとは思わなかったと、肩をすくめるだけなのではないでしょうか。」という投げかけにドキリとしました。自分が使わなかったとしても他人事として考えてはいけないと改めて感じました。

研修で特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、原子爆弾の大きさが小さかったことです。広島に落とされたものは、長さ3m、直径0.7m、重さ4tと、私が考えていたより大変小さいものでした。この爆弾1発が一瞬にして多くの人の命を奪い、街を破壊してしまうなんてと鳥肌が立ちました。

2つ目は、人間魚雷です。一回の攻撃と引き換えに1人の人が亡くなる。それはとても非人道的なことだと思いました。乗る人の気持ち、送り出す家族の気持ちを考えるととても辛いです。

私は広島に行き、戦争では誰もなにも得することはない、ただ人々から幸せを奪うだけだということを知りました。アメリカは、なぜ原子爆弾を使ったのか疑問に思い調べました。日本を早く降伏させ、アメリカ軍の犠牲を少なくし

---

たいと考えていたため、また、原子爆弾の保持を示すことで世界で優位に立ちたい、原子爆弾を使ったことで終戦し、多額の費用と多くの人材を使い開発した原爆が意味のあるものだったとアメリカ国内に知らしめるため、それらのために、原子爆弾を使ったとのことでした。自国を注目させるために原子爆弾を落とすのは、人々を苦しめてよい理由にはなりません。

私は、広島原爆投下で起こったことに目を背けず、しっかり向き合い学ぶことができました。これで終わりではなく、たくさんの人に戦争の恐ろしさを伝え、少しでも世界の平和を目指すお手伝いができればと思います。

---